



# 十二月 (大) 師走

氏宿

(十一月七日大雪の節より  
月命庚子一白水星の月  
暗剣殺北の方)

旧十二月大

日	曜日	干支	九星	行事	旧曆	六輝	中殿	其宿	下段	日出入	月出入	満潮	干潮
1日	木	ひのと	七赤	映画の日、鉄の記念日、世界エイズデー、歳末助け合い運動 旧十二月大	三	先勝	やぶる	斗	くま日	6.32	16.28	7.36	18.00
2日	金	つちのえうま	六白		四	友引	あやぶ	牛	神よし	6.33	16.28	8.26	18.49
3日	土	つちのひびこ	五黄	秩父夜祭、障害者週間、不成就日	五	先負	なる	女	大みやう	6.34	16.28	9.13	19.42
4日	日	かえさる	四緑	人権週間、庚申	六	佛滅	おさん	虚	●	6.35	16.28	20.37	18.50
5日	月	かのと	三碧	納めの水天宮、一粒万倍日	七	大安	ひらく	危	十し	6.36	16.28	21.35	18.50
6日	火	みづのえいぬ	二黒	小田原秋葉権現火防祭、一粒万倍日	八	赤口	とづ	室	ぶく日	6.36	16.28	22.35	19.33
7日	水	みづのと	一白	大雪一時四十分、●上弦一八時〇三分、八せん終り、一粒万倍日	九	先勝	とづ	壁	ぢう日	6.37	16.28	23.37	16.52
8日	木	きのえ	ね一白	納めの薬師、成道会、九星陽運始め、針供養、こと納め、甲子、天しや、一粒万倍日	十	友引	たつ	奎	よろづよし	6.38	16.28	12.31	12.31
9日	金	きのと	二黒	京都了徳寺大根焚き、漱石忌	十一	先負	のぞく	婁	神よし	6.39	16.28	13.08	0.41
10日	土	みづのと	三碧	大宮氷川神社大湯祭、岡山最上稲荷火焚祭、世界人権デー、納めの金毘羅、三隣亡	十二	佛滅	みつ	胃	天おん	6.40	16.28	13.47	1.46
11日	日	ひのと	四緑	不成就日	十三	大安	たいら	昴	●	6.40	16.28	14.28	2.50
12日	月	つちのえうま	五黄		十四	赤口	さだん	畢	天おん	6.41	16.28	15.14	3.49
13日	火	つちのと	六白	己巳	十五	先勝	とる	觜	十し	6.42	16.29	16.06	4.40
14日	水	かえうま	七赤	○望九時〇六分、東京高輪泉岳寺義士祭、大つち	十六	友引	やぶる	参	ちいみ	6.42	16.29	16.29	5.14

一年の締めくくりの月であり、年間を通じて最も日中の短い月である。  
この月の別名として「師走」の呼称が通例になっていくのは、やはり一般に師匠までも走り出す月、という人間味を伴った語感のせいであろうか。  
年の最後の月として、各地でいろいろな行事や祭祀があるが、だいたい納めや供養である。  
今年一年間の喜び、反省等、それらを思い返し、整理することで、来る年への指針となし期待を持ち、そして自戒するべきものがあるれば心に誓うべきであろう。  
「一歳暮」とは元来年の暮の一節であるが、日ごろ世話になつていたり人や親戚などへの、一年間のお礼心としての贈り物がいつのころから「お歳暮」というならわしになつた。  
正月始めは、この月の八日から十三日から、正月を迎える準備をし始めることを

日	曜日	干支	九星	行事	旧曆	六輝	中殿	其宿	下段	日出入	月出入	満潮	干潮
15日	木	かのと	八白	年賀郵便特別扱い、東京世田谷ポロ市	十七	先負	あやぶ	井	大みやう	6.43	16.29	16.29	11.42
16日	金	みづのえさる	九紫		十八	佛滅	なる	鬼	百事吉	6.44	16.29	17.46	12.23
17日	土	みづのと	一白	東京浅草観音歳の市、伊勢神宮月次祭、奈良春日大社若宮おん祭	十九	大安	おさん	柳	神よし	6.44	16.29	19.07	18.04
18日	日	きのえ	二黒	納めの観音	二十	赤口	ひらく	星	●	6.45	16.30	20.11	9.16
19日	月	きのと	三碧	一粒万倍日、不成就日	廿一	先勝	とづ	張	ぢう日	6.46	16.31	21.14	10.40
20日	火	ひのえ	ね四緑	一粒万倍日	廿二	友引	たつ	翼	大みやう	6.46	16.31	22.14	11.50
21日	水	ひのと	五黄	冬至一九時四四分、●下弦一〇時五十分、ゆず湯、納めの大師	廿三	先負	のぞく	軫	大みやう	6.47	16.32	23.12	13.03
22日	木	つちのえうま	六白	三隣亡、小つち	廿四	佛滅	みつ	角	きこ	6.47	16.32	11.48	12.10
23日	金	つちのと	七赤	回天皇誕生日	廿五	大安	たいら	亢	●	6.47	16.33	12.51	13.23
24日	土	かえさる	八白	クリスマス、イブ、納めの地藏	廿六	赤口	さだん	氐	天おん	6.48	16.33	1.03	14.00
25日	日	かのと	九紫	クリスマス、終い天神、蕪村忌	廿七	先勝	とる	房	十し	6.48	16.34	2.51	15.07
26日	月	みづのえうま	一白		廿八	友引	あやぶ	心	百事吉	6.49	16.34	3.45	16.33
27日	火	みづのひびこ	二黒	不成就日	廿九	先負	あやぶ	尾	天おん	6.49	16.34	4.38	17.37
28日	水	きのえさる	三碧	官庁御用納め、納めの不動、十方ぐれ入り	三十	佛滅	なる	箕	大みやう	6.49	16.35	5.31	18.57
29日	木	きのと	四緑	朔一五時五三分 旧十二月大	朔	赤口	おさん	斗	神よし	6.50	16.36	6.22	20.37
30日	金	ひのえ	五黄		二	先勝	ひらく	牛	五む日	6.50	16.37	7.11	22.50
31日	土	ひのと	六白	年越し、大はらい、男鹿なまはげ、除夜の鐘、出羽三山松例祭、一粒万倍日	三	友引	とづ	女	大みやう	6.50	16.38	8.00	23.23

いう古い習慣で、すす払いから着手したものである。  
二十二日前後に二十四節氣の一つ「冬至」がある。  
この日北半球では最も日が短く、この日を境に日脚が延びるので、地方によりそれぞの行事を持つていたり風邪をひきにくいといつて「ゆず湯」に入る習慣は全国的に知られていよう。  
二十三日は「天皇誕生日」である。  
二十五日はキリストの降誕日で、その前夜の「クリスマススイブ」とともに、欧米では正月よりも盛大に祝う。わが国でもキリスト教とは関係なくツリイを飾ったり、プレゼントをし合ったりする家庭も多い。  
新年を迎える飾り物は、三十日までにととのえるが、二十九日は苦節り、三十日は一夜飾りといつて嫌うので早目の準備を心掛ける。  
大晦日(おおみそか)の夜は神棚にお灯明をあげたり、年越しそば(みそかそば)を食べたり、神社や寺院に参詣したりし、その土地土地によつて独特の習慣を持つていたりする。